スーパーマーケット販売統計調査資料

2019 年 10 月実績 速報版（パネル 270）
9 月実績 確報版（パネル 270）

（2019 年 11 月 21 日公表）

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に取り扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016 年 4 月実績よりパネル対象企業変更（275 社→270 社）

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版：毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版：速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店：前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店：前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮 3 部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜		惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インストアベーカーリー、ファーストフード
		日配		豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム
		一般食品		調味料、瓶缶詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類
	非食品			日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具
	その他			テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業（DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等）

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014 年 4 月実績よりエリア区分を 8 地方区分による 6 地方に変更

一般社団法人　全国スーパーマーケット協会
一般社団法人　日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ
tokei@super.or.jp

2019年11月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
2019年10月実績　速報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
総売上高	89,006,218	100.0%	100.0%	98.3%
食品合計	80,878,403	90.9%	100.6%	98.8%
生鮮３部門合計	31,060,803	34.9%	99.5%	97.8%
青果	12,557,691	14.1%	97.2%	95.8%
水産	7,658,818	8.6%	100.0%	98.5%
畜産	10,844,294	12.2%	102.0%	99.9%
惣菜	9,126,614	10.3%	100.9%	99.7%
日配	17,590,478	19.8%	102.2%	99.6%
一般食品	23,100,508	26.0%	100.6%	99.2%
非食品	5,960,943	6.7%	95.0%	94.5%
その他	2,166,929	2.4%	97.5%	96.4%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
北海道・東北地方	12,000,395	43	99.3%	98.0%
関東地方	33,264,522	73	100.6%	99.2%
中部地方	10,830,236	53	100.7%	98.6%
近畿地方	19,288,259	44	100.4%	98.3%
中国・四国地方	8,872,664	34	98.6%	96.8%
九州・沖縄地方	4,750,141	23	97.4%	95.0%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
1～3店舗	613,722	45	92.9%	94.4%
4～10店舗	4,280,332	79	96.6%	97.6%
11～25店舗	9,413,540	58	99.1%	98.0%
26～50店舗	15,744,781	44	99.2%	97.7%
51店舗以上	58,953,843	44	100.7%	98.6%

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	86,417,277
総店舗数（店舗）	8,003	店舗平均月商（万円）	11,122
総売場面積（㎡）	13,288,464	売場１㎡あたり売上高（万円）	6.7

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第２位以下四捨五入

2019年11月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
2019年9月実績　確報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
総売上高	90,224,509	100.0%	101.2%	99.9%
食品合計	81,329,622	90.1%	100.5%	99.1%
生鮮３部門合計	30,236,691	33.5%	97.7%	96.3%
青果	12,728,305	14.1%	96.8%	95.6%
水産	7,442,219	8.2%	99.3%	97.8%
畜産	10,066,166	11.2%	97.5%	96.0%
惣菜	9,373,964	10.4%	102.5%	101.0%
日配	17,729,934	19.7%	100.1%	98.5%
一般食品	23,989,033	26.6%	103.7%	102.5%
非食品	6,577,066	7.3%	111.7%	109.5%
その他	2,317,871	2.6%	99.7%	98.8%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
北海道・東北地方	12,357,593	43	100.4%	98.6%
関東地方	33,642,198	73	101.5%	100.3%
中部地方	11,087,271	53	100.9%	99.5%
近畿地方	19,223,840	44	100.6%	99.2%
中国・四国地方	9,007,953	34	100.9%	99.6%
九州・沖縄地方	4,905,654	23	104.4%	103.2%

保有店舗数別集計

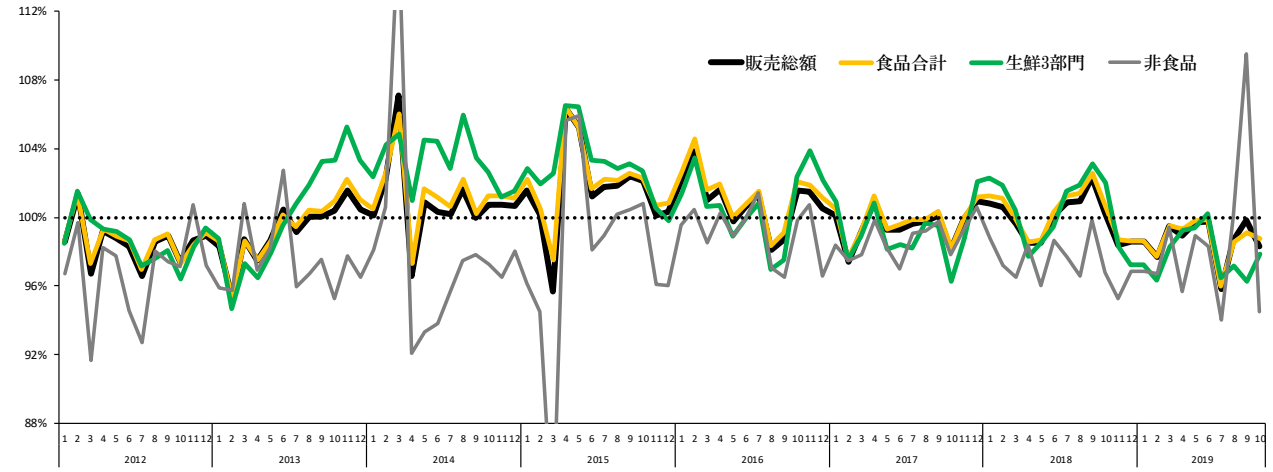
保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
1～3店舗	623,442	45	94.9%	96.2%
4～10店舗	4,365,363	80	96.8%	98.2%
11～25店舗	9,583,206	58	99.7%	98.8%
26～50店舗	15,926,336	43	101.1%	99.2%
51店舗以上	59,726,161	44	101.8%	100.3%

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	87,335,207
総店舗数（店舗）	8,003	店舗平均月商（万円）	11,274
総売場面積（㎡）	13,293,490	売場１㎡あたり売上高（万円）	6.8

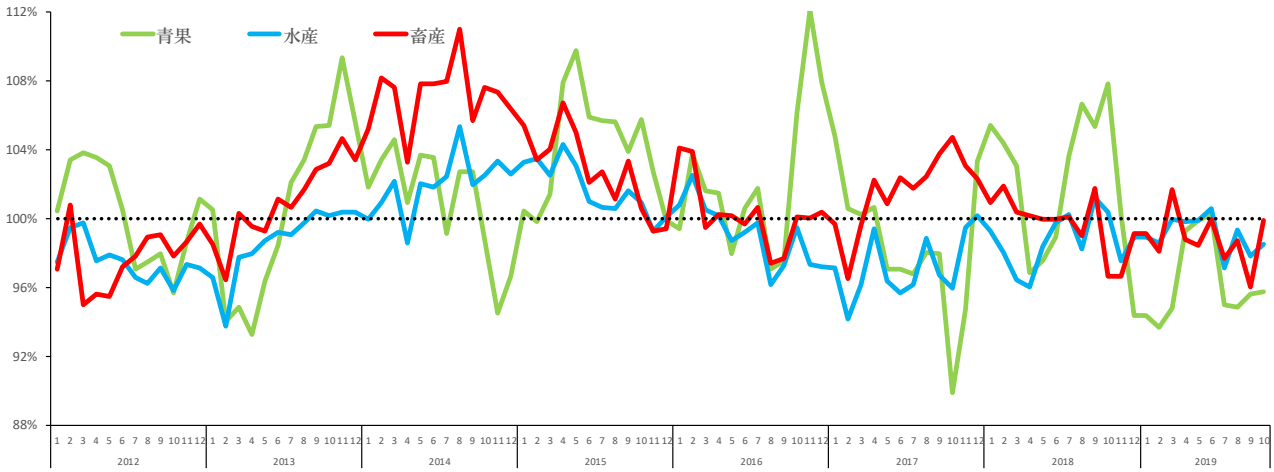
※売上高は税抜金額
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第２位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計（パネル270） 既存店前年同月比推移 2012年1月～

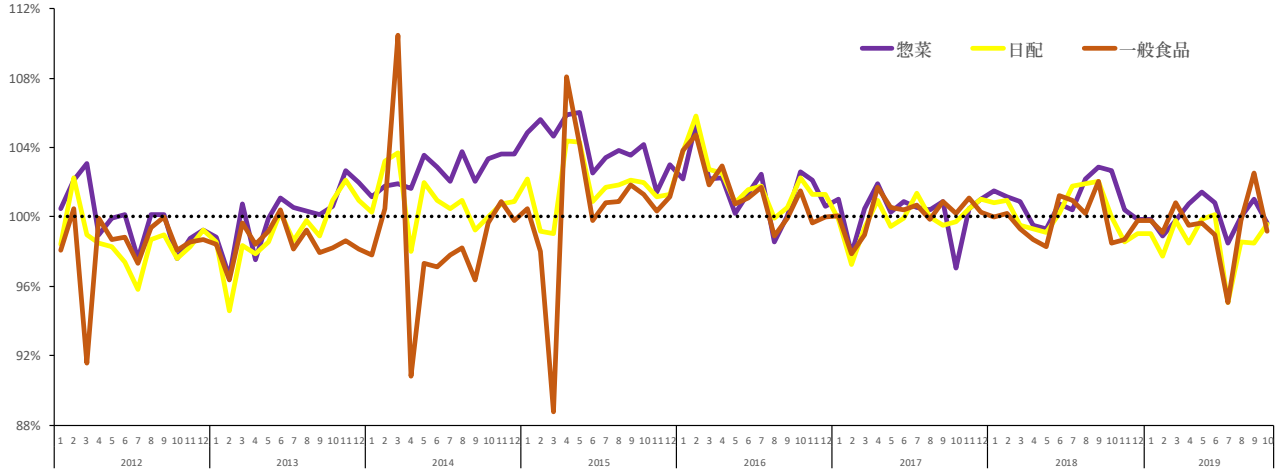
総売上高・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2019年10月実績は速報値

2019年10月エリア別気候状況

気温の特徴：北・東・西日本では、気温がかなり高かった

上旬：北・東・西日本でかなり高く、沖縄・奄美で高かった。

中旬：東・西日本で高かった。北日本と沖縄・奄美では平年並だった。

下旬：北・東・西日本でかなり高かった。沖縄・奄美では平年並だった。

2018年10月との比較：中旬以降、西日本を中心に前年よりかなり気温が高かった

	平年との比較（℃）						今年と前年との差（℃）		
	2019年10月			2018年10月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北海道地方	1.9	-0.6	2.6	1.4	0.3	1.9	0.5	-0.9	0.7
東北地方	2.4	0.4	2.5	2.9	-0.3	1.1	-0.5	0.7	1.4
関東甲信地方	3.0	1.9	1.8	3.2	0.1	1.0	-0.2	1.8	0.8
北陸地方	2.0	0.5	2.0	2.1	-0.6	0.5	-0.1	1.1	1.5
東海地方	2.8	1.9	1.9	2.2	-0.2	0.5	0.6	2.1	1.4
近畿地方	2.7	1.3	2.0	1.9	-0.4	0.4	0.8	1.7	1.6
中国地方	2.3	0.9	2.2	1.8	-0.8	0.0	0.5	1.7	2.2
四国地方	2.5	1.9	1.9	1.9	-1.2	0.0	0.6	3.1	1.9
九州北部	2.4	0.8	1.6	1.0	-1.6	-0.4	1.4	2.4	2.0
九州南部・奄美地方	1.9	1.9	1.3	0.8	-2.2	-0.6	1.1	4.1	1.9

平年差
＋2℃以上　－2℃以上
＋1℃以上　－1℃以上

前年差
＋2℃以上　－2℃以上
＋1℃以上　－1℃以上

日照時間の特徴：東日本日本海側でかなり少なく、北・東日本太平洋側と西日本で少なかった

上旬：東日本太平洋側と沖縄・奄美でかなり多く、西日本太平洋側で多かった。

中旬：東・西日本太平洋側と沖縄・奄美でかなり少なく、北日本太平洋側と東・西日本日本海側で少なかった。

下旬：北・西日本太平洋側と東日本で少なかった。一方、北日本日本海側と沖縄・奄美で多かった。

2018年10月との比較：中旬以降西日本を中心にやや日照時間が少なかった

	日照時間　平年比（%）						今年と前年との差（%）		
	2019年10月			2018年10月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北海道地方	92	99	118	89	117	110	3	-18	8
東北地方	110	89	79	114	85	117	-4	4	-38
関東甲信地方	152	45	62	139	47	130	13	-2	-68
北陸地方	109	64	76	105	96	102	4	-32	-26
東海地方	129	47	73	133	60	129	-4	-13	-56
近畿地方	123	48	73	117	96	119	6	-48	-46
中国地方	105	69	89	91	97	109	14	-28	-20
四国地方	116	77	93	110	105	122	6	-28	-29
九州北部	152	45	62	84	105	110	68	-60	-48
九州南部・奄美地方	127	84	82	115	73	151	12	11	-69

平年差
平年比150%以上　平年比50%以下
平年比125%～149%　平年比51%～75%

前年差
＋50%以上　－50%以下
＋25～49%　－25～-49%

降水量の特徴：台風19 号による記録的な大雨で、北日本太平洋側と東日本では、降水量がかなり多かった

上旬：北日本と東日本日本海側で多かった。一方、東日本太平洋側と西日本日本海側、沖縄・奄美で少なかった。

中旬：北・東日本でかなり多く、西日本で多かった。

下旬：東・西日本太平洋側でかなり多く、北日本太平洋側と西日本日本海側で多かった。一方、北日本日本海側と沖縄・奄美では少なかった。

2018年10月との比較：中旬以降、北海道を除きかなり降水量が多くなった

	降水量　平年比（%）						今年と前年との差（%）		
	2019年10月			2018年10月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北海道地方	198	114	39	247	73	162	-49	41	-123
東北地方	108	705	197	95	52	120	13	653	77
関東甲信地方	41	690	389	32	46	49	9	644	340
北陸地方	117	267	89	68	113	0	49	154	89
東海地方	37	656	326	30	36	47	7	620	279
近畿地方	57	293	302	41	43	56	16	250	246
中国地方	52	135	199	32	0	97	20	135	102
四国地方	121	102	340	48	35	59	73	67	281
九州北部	34	167	239	86	0	101	-52	167	138
九州南部・奄美地方	72	77	155	167	43	30	-95	34	125

平年差
平年比150%以上　平年比50%以下
平年比125%～149%　平年比51%～75%

前年差
＋50%以上　－50%以下
＋25～49%　－25～-49%

気象庁ホームページ・報道発表資料「10月の気候」参照
平年値は過去30年（1981年～2010年）の平均
スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット景気動向調査

2019 年 11 月調査結果（10 月実績）
（2019 年 11 月 21 日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1.経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について
- 前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの５段階で評価
- 前年同月を 100 とした当月の値を調査　※2014 年 4 月実績より

2.カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、
- 前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの５段階で評価
- 各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査 DI（Diffusion Index）の算出方法

回答構成比（%）に以下の点数を乗じて DI を算出

かなり改善＋0.5・やや改善＋0.25・変わらない±0 ・やや悪化－0.25・かなり悪化－0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DI は「0」

【景況感調査】

1.景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、
- ２～３ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで５段階で評価
- 今後２～３ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの５段階で評価

景況感 DI（Diffusion Index）の算出方法

回答構成比（%）に以下の点数を乗じて DI を算出

かなり改善＋1.0・やや改善＋0.75・変わらない＋0.5 ・やや悪化＋0.25・かなり悪化＋0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DI は「50」

一般社団法人　全国スーパーマーケット協会
一般社団法人　日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

11 月調査（10 月実績）結果概況

景気判断　現状判断 DI は悪化も見通しは横ばい推移

10 月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断 DI 現状判断は、前月から-3.2 の 39.1、見通し判断は前月から+0.5 の 37.6 となり、現状判断は悪化しものの、見通し判断は横ばいで推移した。

経営動向調査では、売上高 DI、収益 DI 共に前月に比べマイナス幅を拡大し二桁マイナス水準まで低下した。気温が高く推移したことで秋冬物商戦が伸び悩んだ一方で、台風の影響による買いだめ需要もみられた。消費税率引き上げ前の駆け込み需要の反動が非食品カテゴリーを中心に発生、酒類など一般食品の一部でもみられた。

カテゴリー動向調査では、駆け込み需要の反動があった非食品 DI が-16.8 や一般食品 DI が大幅なマイナスとなった。また青果相場が安値で推移した青果 DI やサンマの記録的不漁の影響を受けた水産 DI も低迷した。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査現状判断は悪化をみせたが、見通し判断は横ばいでの推移となっている。（長期傾向については p 11 参照）

キャッシュレス・ポイント還元制度などの負担軽減策に加え、台風接近に伴う買いだめ需要が加わり、消費税率引き上げによるスーパーマーケットへの影響が見えにくい状況となっている。国内消費は低迷が続くと予想されるなか、軽減税率制度の消費者への周知や内食の喚起などによるスーパーマーケット独自の食品への購買意欲活性化策が重要となるだろう。

景況感調査

現状判断

景気判断DI	消費者購買意欲DI	周辺地域　競合状況DI	店舗周辺地域　景気判断DI
当月：３９．１（－３．２）	当月：３９．２（－６．０）	当月：３９．２（－０．６）	当月：４０．９（－２．１）
前月：４２．３	前月：４５．２	前月：３９．８	前月：４３．０

見通し判断

景気判断DI	消費者購買意欲DI	周辺地域　競合状況DI	店舗周辺地域　景気判断DI
当月：３７．６（＋０．５）	当月：３８．２（０．０）	当月：３９．０（＋２．２）	当月：４０．５（－０．５）
前月：３７．１	前月：３８．２	前月：３６．８	前月：４１．０

経営動向調査　経営状況

売上高DI	客単価DI	来客数DI
当月：－１５．９（－９．０）	当月：－１．６（＋２．７）	当月：－１４．９（－７．８）
前月：－６．９	前月：－４．３	前月：－７．１

収益DI	販売価格DI	生鮮品仕入原価DI	食品仕入原価DI
当月：－１３．１（－５．０）	当月：－１．７（－４．６）	当月：０．８（＋０．３）	当月：３．５（－１．６）
前月：－８．１	前月：２．９	前月：０．５	前月：５．１

カテゴリー動向

青果DI	水産DI	畜産DI
当月：－１９．２（－５．１）	当月：－８．１（－０．６）	当月：－５．７（＋９．０）
前月：－１４．１	前月：－７．５	前月：－１４．７

惣菜DI	日配DI	一般食品DI	非食品DI
当月：－３．５（－７．７）	当月：－７．８（＋０．２）	当月：－８．４（－１０．４）	当月：－１６．８（－２８．０）
前月：４．２	前月：－８．０	前月：２．０	前月：１２．８

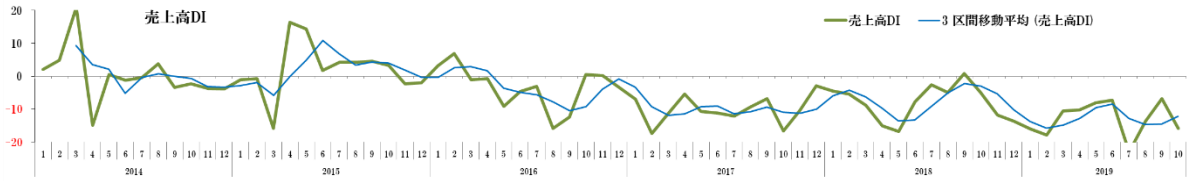
※DI 値は前年同月との比較／（）内は前月 DI からの変化

結果詳細　Ⅰ．経営動向調査（2014 年 1 月～）

1.　売上高 DI

再び下落し、二桁マイナスを記録

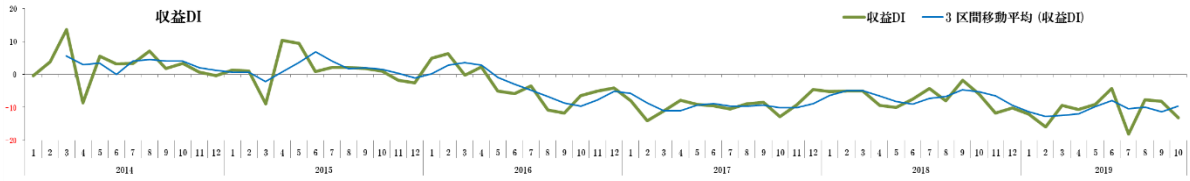
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	14.1	34.1	23.5	21.8	6.5	-6.9
売上高（当月）	**21.9**	**37.5**	**25.6**	**12.5**	**2.5**	**-15.9**



2.　収益 DI

やや下落し、二桁マイナスを記録

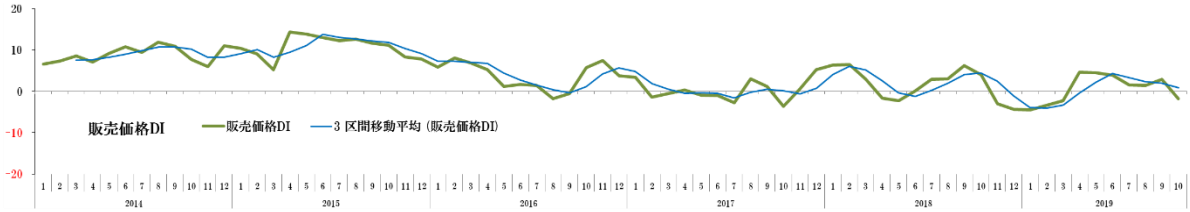
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	15.1	30.7	31.3	17.5	5.4	-8.1
収益（当月）	**15.2**	**39.9**	**29.7**	**12.7**	**2.5**	**-13.1**



3.　販売価格 DI

わずかなマイナスに転換

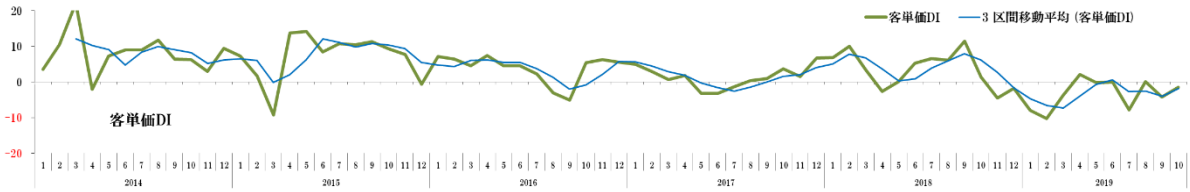
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.0	13.5	61.2	25.3	0.0	2.9
販売価格（当月）	**1.9**	**23.1**	**55.6**	**18.8**	**0.6**	**-1.7**



4.　客単価 DI

マイナス幅を縮小も

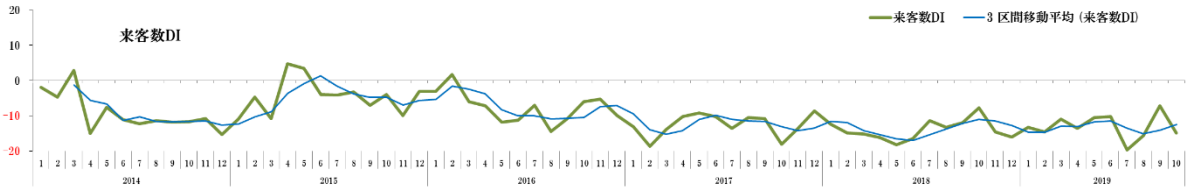
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	3.0	30.8	46.7	19.5	0.0	-4.3
客単価（当月）	**1.9**	**29.8**	**41.6**	**26.1**	**0.6**	**-1.6**



5.　来客数 DI

マイナス幅を拡大し、二桁水準での低迷が続く

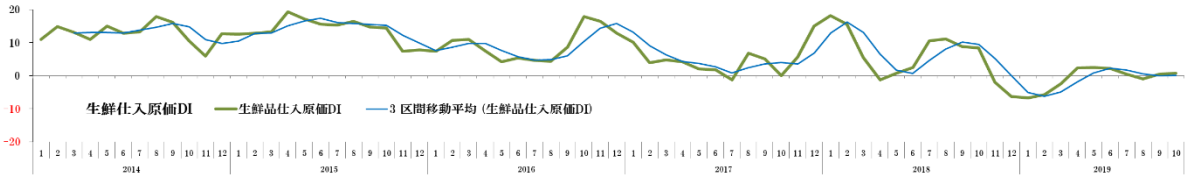
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数（前月）	11.3	34.5	29.8	20.2	4.2	-7.1
来客数（当月）	**16.1**	**41.6**	**29.8**	**10.6**	**1.9**	**-14.9**



6.　生鮮仕入原価 DI

小幅ながらプラス圏を維持

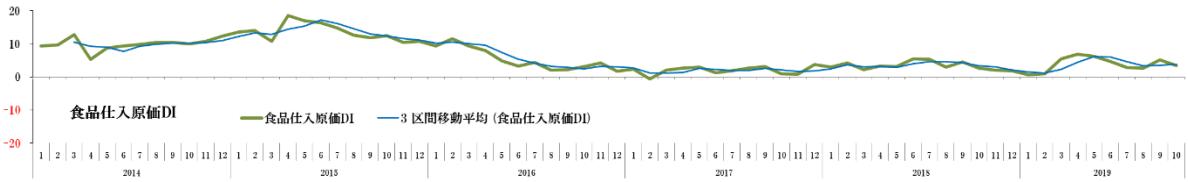
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価（前月）	4.8	16.9	51.2	25.9	1.2	0.5
生鮮仕入原価（当月）	**2.6**	**15.4**	**59.6**	**21.2**	**1.3**	**0.8**



7.　食品仕入原価 DI

プラス圏で底堅い推移が続く

回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価（前月）	3.0	7.8	59.0	25.9	4.2	5.1
食品仕入原価（当月）	**3.8**	**9.6**	**59.0**	**23.7**	**3.8**	**3.5**

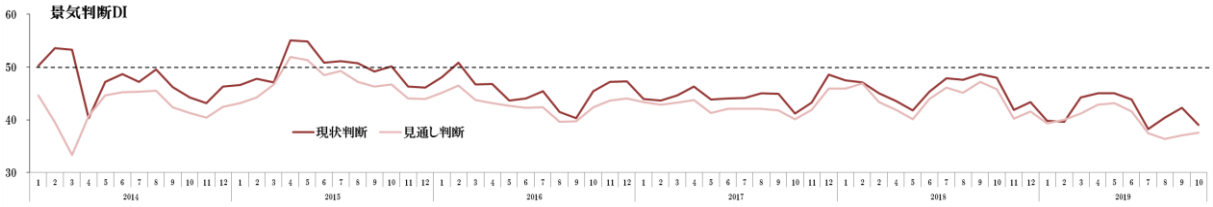


Ⅱ．景況感調査（2014 年 4 月～／周辺地域景気判断 2010 年 4 月～）

1． 中核店舗景気判断 DI

現状判断は大幅な悪化、見通しは横ばい推移

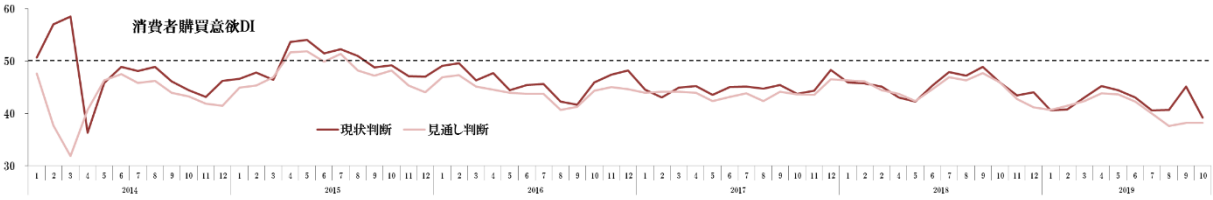
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断（前月）	5.8	31.6	51.5	9.9	1.2	42.3
【現状】景気判断（当月）	**5.1**	**38.6**	**51.9**	**3.8**	**0.6**	**39.1**
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断（前月）	8.2	42.9	41.2	7.6	0.0	37.1
【見通し】景気判断（当月）	**5.0**	**42.8**	**49.1**	**3.1**	**0.0**	**37.6**



2． 消費者購買意欲 DI

現状判断は大幅な悪化、見通しは横ばい推移

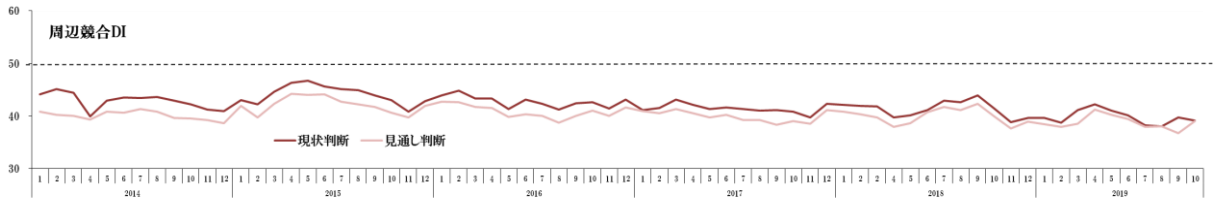
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲（前月）	3.5	30.4	49.7	14.6	1.8	45.2
【現状】購買意欲（当月）	**4.4**	**39.2**	**51.9**	**3.8**	**0.6**	**39.2**
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲（前月）	5.9	42.4	45.3	5.9	0.6	38.2
【見通し】購買意欲（当月）	**2.5**	**43.4**	**52.8**	**1.3**	**0.0**	**38.2**



3． 中核店舗周辺競合状況 DI

見通し判断はやや改善

回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況（前月）	8.8	27.5	59.6	4.1	0.0	39.8
【現状】競合状況（当月）	**8.8**	**28.3**	**60.4**	**2.5**	**0.0**	**39.2**
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況（前月）	10.1	36.3	50.0	3.6	0.0	36.8
【見通し】競合状況（当月）	**6.9**	**32.1**	**59.1**	**1.9**	**0.0**	**39.0**

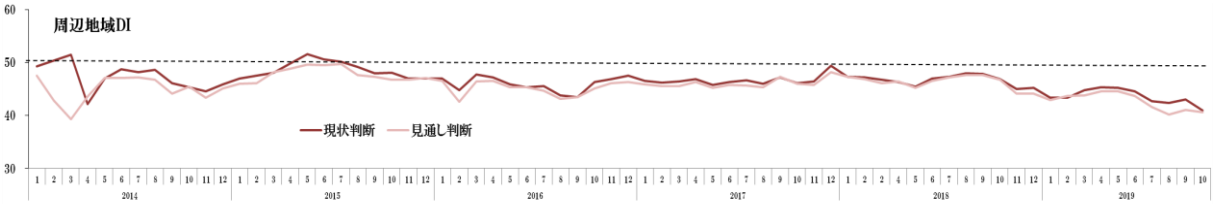


4.　中核店舗周辺地域景気判断 DI

現状判断は悪化、見通しは横ばい推移

回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気（前月）	2.9	25.7	67.8	3.5	0.0	43.0
【現状】地域景気（当月）	**2.6**	**32.7**	**63.5**	**1.3**	**0.0**	**40.9**

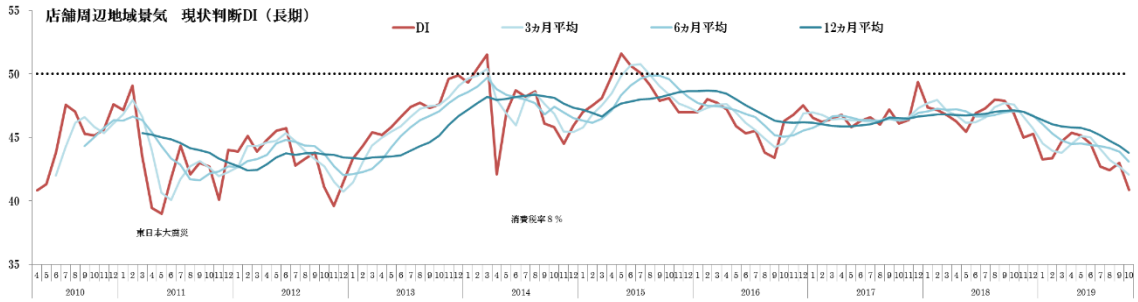
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気（前月）	3.5	32.4	60.6	3.5	0.0	41.0
【見通し】地域景気（当月）	**1.3**	**35.9**	**62.2**	**0.6**	**0.0**	**40.5**

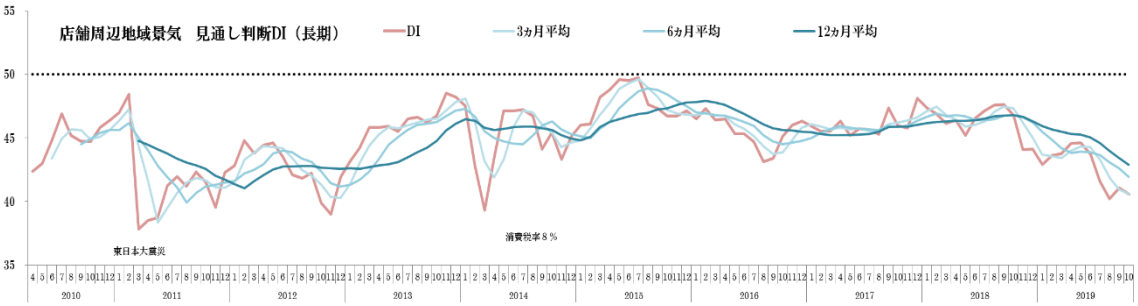


・中核店舗周辺地域景気判断 DI　長期傾向（2010 年 4 月～）

周辺地域景気判断 DI は、2011 年 3 月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12 年 11 月から 16 ヵ月にわたる改善が続き、14 年 3 月には現状判断 DI が 51.5 を記録した。14 年 4 月の消費税率 8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持直しをみせ、2015 年 5 月には現状判断 DI は 51.6 にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

しかしこれをピークに、その後 15 ヵ月間にわたり悪化傾向が続き 16 年 9 月には、現状判断 DI は 43.4 まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18 年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19 年 10 月には現状判断 DI は 40.9 まで低下した。

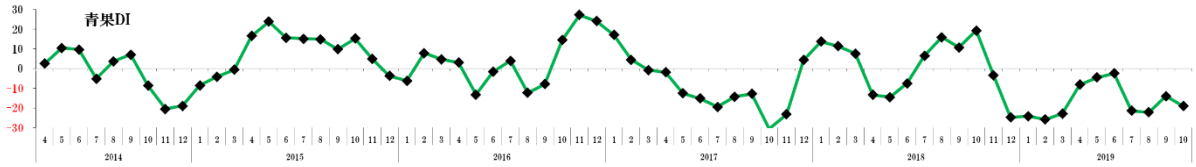




Ⅲ.カテゴリー別動向

1.　青果 DI：-19.2（不調）

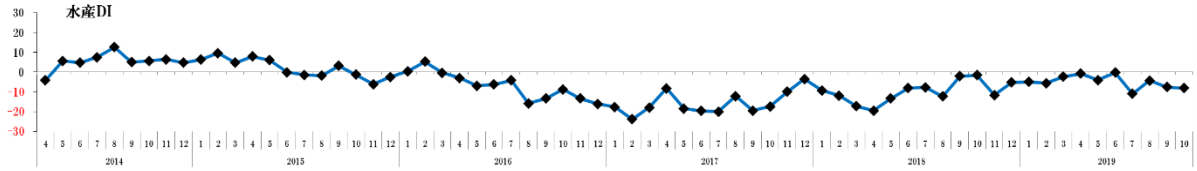
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	18.4	38.7	26.4	14.1	2.5	-14.1
青果（当月）	**22.7**	**42.9**	**24.0**	**9.1**	**1.3**	**-19.2**



青果相場が安値で推移し単価が大きく下落した影響に加え、月を通じて気温が高く、葉物や根菜類、キノコ類などの鍋用野菜の動きが悪かった。また台風の影響でトマト類に入荷に影響が出た地域もあった。サラダ関連は好調で、特にカット野菜の動きがよかった。果物類ではシャインマスカットや梨は相場高のなか動きがよかったが、みかんは不調だった。輸入果物ではキウイフルーツは好調が一巡し動向にやや陰りがみられるとのコメントもみられた。

2.　水産 DI：-8.1（やや不調）

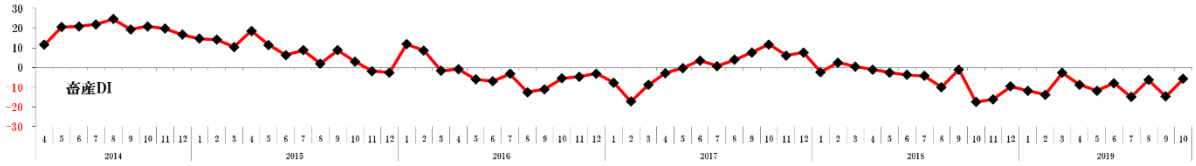
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	13.5	29.4	35.6	16.6	4.9	-7.5
水産（当月）	**9.7**	**38.3**	**29.9**	**18.8**	**3.2**	**-8.1**



前年やや漁獲量が回復したサンマだったが、今年は記録的な不漁となり高値で大きな落ち込みとなった。スルメイカの不漁による影響も受けた。また高い気温により鍋物用食材（牡蠣やタラなど）は動きが悪かった。一方で秋鮭は入荷が安定しており好調となった。また刺身類や海藻類は好調に推移した店舗が多かった。

3.　畜産 DI：-5.7（やや不調）

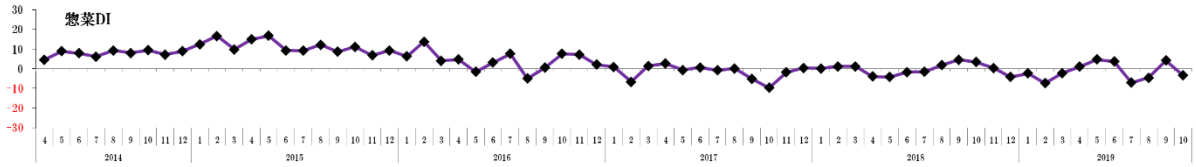
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	20.4	34.6	29.6	14.2	1.2	-14.7
畜産（当月）	**8.4**	**35.7**	**29.2**	**23.4**	**3.2**	**-5.7**



牛肉は相場高が続いており、平年より高い気温により、焼肉・ステーキ用の動きはよかったものの全体的に伸び悩んだ。一方で鍋物需要低迷の影響を受けたが、CSF（豚コレラ）の影響で単価が上昇しており前年並みとなった。鶏肉はから揚げ用を中心に好調となった店舗が多い。台風接近による備蓄需要の追い風を受け加工肉が好調となった店舗もみられた。

4.　惣菜 DI：-3.5（やや不調）

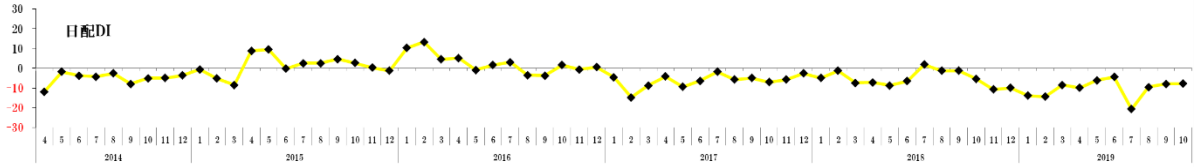
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	7.5	18.0	34.2	31.1	9.3	4.2
惣菜（当月）	**9.9**	**25.0**	**39.5**	**20.4**	**5.3**	**-3.5**



好天に恵まれた地域では行楽需要が高まり、米飯類、唐揚げなどの動きがよく好調となった店舗がみられた。一方で台風の影響を受けた地域では、買いだめ需要もみられたものの、イベントの中止などで大きな打撃を受けた店舗もあり、好不調わかれる状況となっている。全般的に気温が高く推移したことから、サラダ類や寿司類の動きがよかった。

5.　日配 DI：-7.8（やや不調）

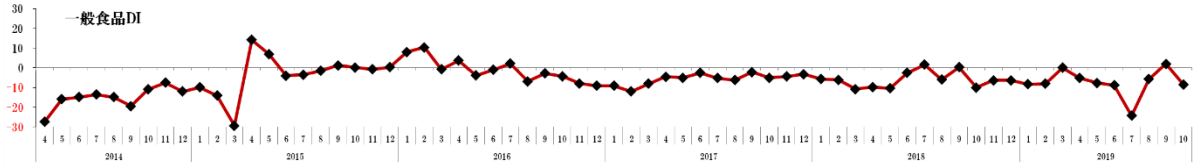
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	13.0	30.2	36.4	16.7	3.7	-8.0
日配（当月）	**11.1**	**32.7**	**36.6**	**15.7**	**3.9**	**-7.8**



気温が高めで推移したため、和日配では鍋物やおでん商材、また麺類などのホット商材の動きが悪かった。一方でアイスや牛乳、ヨーグルトは好調となった店舗が多かった。台風の影響により、パン類や冷凍食品に特需がみられた地域があった。

6.　一般食品：-8.4（やや不調）

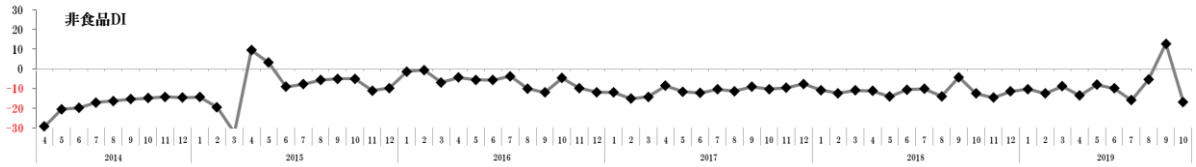
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	7.4	24.7	30.9	26.5	10.5	2.0
一般食品（当月）	**9.7**	**36.1**	**35.5**	**15.5**	**3.2**	**-8.4**



気温が高めに推移した影響で鍋用調味料や麺類やシチューなどホット商材は不振となった。台風の影響があった地域では、飲料やインスタント食品、缶詰などに特需が発生した。アルコール類は増税前の買いだめ需要の反動により不振となった。新米は伸び悩んだ店舗が多かった。

7.　非食品 DI：-16.8（不調）

回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	7.1	14.1	25.6	26.9	26.3	12.8
非食品（当月）	**28.9**	**27.0**	**29.6**	**11.2**	**3.3**	**-16.8**



駆け込み需要の反動により不調となった。一方で台風の影響を受けた地域では、乾電池、ゴミ袋、カセットコンロなどに特需が発生した。前年値上げ後の反動減があったたばこは好調となった。他業態とのポイント競争の厳しさを指摘するコメントもみられた。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：　～ 20　　好調：　20 ～ 10　　やや好調：10 ～ 0
やや不調　：　0 ～ -10　　不調：-10 ～-20　　かなり不調：　-20～

2019 年 11 月調査（10 月実績）キーワード TOP3

1. 台風の影響
2. 気温が高い
3. 増税の影響

（参考）2018 年 11 月調査（10 月実績）キーワード TOP3

1. 日曜日が一日少ない
2. 好天・気温が高い
3. 青果相場高（前年比）

スーパーマーケット景気動向調査　集計数

10 月実績速報版　　159 社
9 月実績確報版　　171 社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局　tokei@super.or.jp